

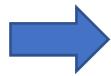
第1回スキルUP学習会『教室の配置図を描いてみよう』まとめ

(みんなの意見・配置のポイント → 構造化につなげるポイント)

<空間の構造化>

○遊びや日常生活や学習のスペースを分ける

- ・何をする場所なのかを明確化する
- ・子ども同士がお互いを意識する場所



視覚的構造化。具体的な物事で意味が理解できる環境も必要。
可変性や段階性に対応した空間構成も考える。
個々の社会性への視点。

こんなスペースをみんなは作っているよ

○広い場所

- ・身体を自分で動かせる
- ・車いすから降りて活動する



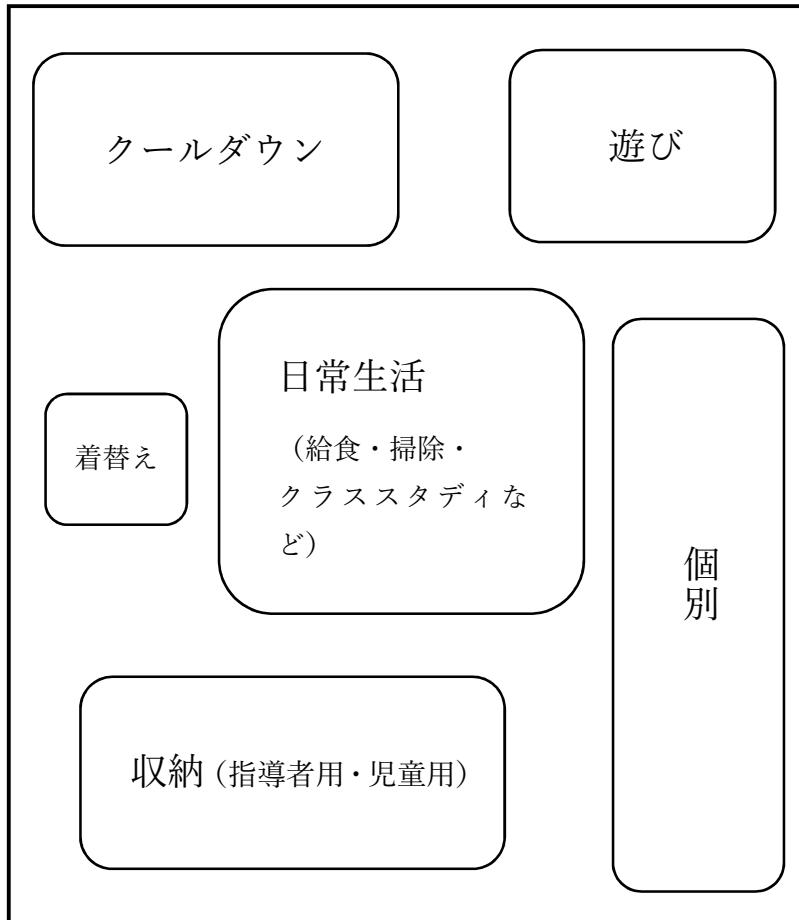
ただ広いだけの場所ではなく、多用途に使用できる空間に。
目的別にわかりやすく統一。

○整理整頓

- ・使う人が分かりやすくまとめておく
- ・物を少なく



指導者はどこに何があるかの把握。複雑な情報が周辺に多くあると混乱を招く。教材教具の精選を。
刺激の統制が必要のない児童もいる。



○遊びのスペースの視覚化

- ・マットを敷いたり
収納ボックスで仕切ったり、カーテンをつけたり



低刺激の場所が必要な児童のことも考える

○個別 (*重要)

- ・机、ロッカーで作る
- ・自分のカラーの名札



言語指示でなく、個別に理解できるマークでも良い。
机や椅子の高さは合っている?

○他にはないかな?考えてみてね。☆再構造化の意識を常に持っていてくださいね。

- ・照明・・・場所によっては手元が暗かったりします。細かい作業をするときはないですか?
エアレックスに横になった時の視界を確認してね。
- ・窓・・・・明るいところから暗い方を向くとどうなる?子どもたちの視線に立ってみよう。窓から何が見えますか?窓際に置いているもの、色が剥げてきますよ。一番は直射日光に気を付けて。
カーテンはぴったり閉まるかな?
- ・衝立・・・個々で必要な高さ(座ったとき、立ったとき)を確認。幅(L字?コの字?他にも)。
可動式?定位置?
危なくないように角や辺を養生してありますか?

裏面へつづく→

<個別空間の構造化>

○机とロッカーは隣り合わせ

- ・自分の場所を明確に
- ・右利き左利きによってロッカーの位置を変えた
- ・やること（身支度など）がすぐできる



気が散る児童、気が散らない児童、他の児童に寄って行って手を出す児童など、一人ひとり児童の特性に応じて考える。

「自分自身の力でできること」＝「一人で活動できること」（＝できる範囲の自立）を増やしていく構造化。

○机とロッカーは別の場所

- ・日中はロッカーを開けることがほとんどない
- ・ロッカーは固定。机は可動。



○教室内の机の場所

- ・集中するように壁向き
- ・教室の外に気が散らないように、外の見えない位置
- ・意識して行動してほしい児童の隣へ
- ・個別課題の時には自分ですぐに向きを変えられる
- ・密閉空間で落ち着けるように教室の隅
- ・声の小さい児童は教師の近くの席に



自分で考える→自立的活動の1つ。
ルーティンにもなる。
指示の入れ方に注意しながら。
理解を高めるための構造化も必要。

○個別スケジュール

- ・机の前の壁
- ・机の隣のロッカー



スケジュールについては、
第2回に詳しく学習しますので、
悩んでいる人は個別に相談してくださいね。

<教室内の動線>

○日常生活の動線を考えた

- ・トイレから戻るとトイレバックを掛けるなど
- ・日中の動線に何も置かない
- ・車いす児童の移動を最短距離に



余分な刺激を除き、見ただけで分かる視覚的構造化。
(視覚的に配置、明確に、指示)
生活しやすい環境作り。
安心、安全な教室。

○物を定位位置に分かりやすく

- ・ベッドから見やすい位置にTVやタブレットを置く
- ・部屋の中で保護者も動きやすいように



「一人ひとりに合わせて組み立てる」＝「援助のプログラムを個別化する」意味を考える。

<ちょっとこれも考えてみてね>

○先生机の位置と向き

- ・机はなぜそこにその向きに？この理由も言える？
- ・先生机の引き出し、子どもは開けない？危ないものは手前にはない？机の上の物は？

○その他の棚など

- ・安全に固定されている？角は子どもを傷つけない？
- ・連絡袋を入れるカゴは倒れない？入れやすい向き？入れやすい大きさ？並べ順もOK？
- ・児童の欲しいものがすぐに手に取れない環境をあえて作る＝要求する状況設定を意図的に作る

